

令和5年度第1回林業アカデミーふくしま運営会議 議事概要

- 1 日 時 令和5年8月29日（火）14：00～16：00
- 2 場 所 林業アカデミーふくしま講義室（県林業研究センター敷地内）
- 3 出席者 別紙出席者名簿のとおり

4 結 果

（司会進行：渡部主任主査）

○挨拶 柳田農林水産部森林林業担当次長

皆様の御協力のもと、昨年4月より林業アカデミーふくしまを本格的に開講した。本年3月には第一期生の修了式を執り行い、14名が県内の林業事業体に就業したところ。

4月7日には新たに第二期生が入講し16名が幅広い知識の習得や各種資格の取得、インターンシップでの体験就業などに意欲的に取り組んでおり、市町村林務担当者や林業従事者等を対象とした短期研修においては、森林・林業の基礎知識や業務で必要な実務、森林施業の技術力向上に向けた各講座を開催しているところ。

本日は、今年度上半期の途中ではあるが、就業前長期研修、短期研修の実績や令和6年度第三期研修生の募集に向けた取組状況を御報告するとともに、下半期への課題や今後の研修計画等について、委員の皆様より御意見や御助言をいただきたいと考えている。

限られた時間ではあるが、皆様には忌憚のない御意見を賜るようお願い申し上げます。

○議事（議事進行：金子座長）

議題（1）令和5年度研修の上半期の運営状況と令和6年度シラバス（案）

【事務局】

（資料1～2に基づき説明）

【委員の意見】

〈平子委員〉

チェーンソーの講義時間は増えていないのか。

《事務局》

4年度と5年度を比較するとチェーンソーの講義時間を増やしている。

〈平子委員〉

実際、研修生が就職したらチェーンソーや刈払機の使用頻度が高いと思われ、すぐにハーベスタを扱う研修生はなかなかいないと思う。となれば、チェーンソーと刈払機の講義は月3日やれば良いと言うものではなくて、毎日少しずつでも良いので繰り返し練習してもらいたい。

〈金子座長〉

チェーンソーの講義時間については昨年度の運営会議で意見があり、増やしているものと思うが、昨年度比較で何時間増やしたのか？

《事務局》

「チェーンソー伐木造材技術」については令和4年度が123時限だったのに対し、230時限に増やした。(107時限増)

令和5年度から令和6年度の時限数が減少しているのは、ハスクバーナに3日間依頼する予定であった講義について、相手方の事情により1日減となり、その日は自主学习の時間に振り替えたためである。

〈平子委員〉

目立てなども毎日やって欲しい。なるべく多く機材に触れる時間を増やしてほしい。チェーンソーの講師は誰か？

《事務局》

秋山林業の秋山健人氏である。

〈平子委員〉

良いと思う。林災防にも講師の相談をいただければ、研修内容にマッチした講師を紹介したいと思う。

〈金子座長〉

実際には、昨年度に比べチェーンソーの講義時間を増やしているが、それでも足りないということなのか。

〈平子委員〉

10月以降の研修に講師で行くことになるので、その際に研修生の技能の上達具合を見て確かめたいと思う。

〈金子座長〉

今年度は、自主的にいつでもチェーンソーに触れるような状態になったということか？

《事務局》

研修生には放課後などでも触って良いと伝えてあり、今年の夏休み期間については4名程度が自主的に来て、チェーンソーをいじっていた。出来るだけ使いやすい環境を作っていきたい。

〈飯沼委員〉

7月末時点での短期研修の実績について説明いただいたが、実績のとりまとめとどのように評価していくかが今後の課題になると思う。それを踏まえて、次回の運営会議で次年度の考え方を説明いただけるということであったが、以下はその手法について私からの意見である。

短期研修の枠では収まらない県の施策・取組もあるかと思う。具体的には、農林事務所が普及活動等の中で現場に合致したきめ細やかな研修を実施しており、当協会においても微力ながら実施している研修もある。県内の幅広い目で現状を捉えて、アカデミーの短期研修で何をやっていくかということを考えていく時期になってきていると思う。参考までに。

《事務局》

御意見のとおりと思う、様々行っている研修を踏まえて情報収集を行うとともに県内のニーズなどは参加者のアンケートを参考に研修を見直していきたい。

〈金子座長〉

参加者が定員を超えている研修があったと思うが、設備が間に合わず受け入れられないなどの事態はあったのか。そのようなことがないようにしていただきたい。

《事務局》

参加者が定員より多い研修については、今年度は県職員も合同で受講していることが理由の一つとしてあるが、基本的に講師には従来の短期研修受講者（市町村職員及び林業従事者）をメインに指導を行ってもらっている。また、センター職員もフォローを行っている。PCが1人1台必要となる研修などは受講が難しい場合があるが、座学の研修などについては定員以上の応募があっても極力参加いただけるように対応していきたい。

〈須藤委員〉

短期研修は市町村において人事異動により新たに林務担当となった方など林業の仕組がわからない方を対象に令和3年度から実施している研修であると認識しているが、今後、資料をまとめていただく際に、令和3～5年において研修を受けてどのような変化があったか、また、その間にも様々な制度など変わっていると思うので、そうした部分も資料にまとめていただくと、わかりやすいかと思う。

《事務局》

実際、市町村職員が3～5年で異動することがあるので、そういった方に研修のニーズはあると思う。また、どの市町村が受講していて、新任になったか、またどんな内容について勉強したいかなど、アンケートを取っているなので、それをとりまとめて研修の見直しを行いたい。

〈五十嵐委員〉

チェーンソーの取扱いに関する部分（実習時間の増加）については堅実だと思う。
実習林について、郡山近辺で伐採が出来る場所は確保しているか？

《事務局》

埴町有林は遠く、太い木が多いことから使用が難しいという状態であったが、今年度については、埴町に相談し伐採しても良いという了解を得ているので伐採の実習を行いたいと考えている。

妙見山国有林でも引き続き伐採実習を行う。また、林研センター内も伐れる木がまだあることから、そちらも使っていきたい。なお、近場で伐採可能なフィールドについても探していきたい。

〈金子座長〉

研修生 1 人当たり年間で何本伐ることが出来るのか？

《事務局》

計算してみたところ 1 人当たり年間 15 本程度と思われる。

議題（２）令和４年度就業前長期研修修了者の就業状況

【事務局】

（資料３に基づき説明）

【委員の意見】

〈丹治委員〉

一期生 14 名が 1 人も欠けることなく就業したところだが、半年が経ち、自分が思い描いていた世界と違ったとか、思い描いた通りだとか、そういった話はあったか。

《事務局》

会社によっては、その雰囲気や業務内容、経済的な問題も含めて「仕事がキツイ」や「痩せた」といった声はあったが、「林業を辞めたい」や、「こんなはずじゃなかった」などという人はなかった。

〈前田委員〉

ヒアリングにより一期生の状況が分かってよかった。

思うように現場仕事が出来ないのは、仕方がないし、まだまだこれからなので頑張ってもらいたい。就業後も一期生が考えている課題や何か学びなおしたいと思った時にフィードバックした再研修の場が必要になってくるのではないかと。

また、アカデミーで学んだことと林業の現場のギャップなどについて一期生が二期生と対話する場があると良いと思う。

《事務局》

再教育・再研修については、一期生の中で大きなテーマなどがあればと思っていたが今のところそのような話は上がってきていない。今後そのような話があれば、二期生と合同で実施したいと考えている。

また、一期生と二期生に集まってもらい、意見交換の場を設ける予定でいる。

〈平子委員〉

一期生のうち、今年の緑の雇用の研修生は何人いるのか？認定林業事業体に就業した人であっても、緑の雇用を受けていない場合があるのはなぜか。

《事務局》

理由としては、事業体として緑の雇用を受けない方針である場合や、そもそも緑の雇用の（OJT 研修における）指導者がいないので受けられないといった場合がある。

一期生での緑の雇用受講者は4名。

〈平子委員〉

ぜひとも活用していただきたい。事業体ごとの定着率にもよるが、年間100万円程度の補助を受けることができるので、その分社員の給与・ボーナスを上げるチャンスになり得る。

〈金子座長〉

受講を希望していたのに、受けられなかった研修生はいるのか。

《事務局》

希望していたが会社の方針により、本人が納得したうえで受講しなかった場合がある。

〈丹治委員〉

一期生14名の就業先のうち4名は認定以外の事業体に就業しているようだ。

一期生が就業先を選択するにあたってそういった情報を与えたうえで就業しているのか。

《事務局》

認定林業事業体に勤めれば緑の雇用研修が受けられるという情報は伝えている。そのうえで認定でない事業体に就職している。

ただ、情報が足りない部分もあったと思うので、今年度は更に就職先の事業体と連絡を取っていきたい。

〈金子委員〉

事業体との面談においてExcelとWordの取り扱いを学んでほしいと言ったのは何社か？→2社ぐらい。

必要性を理解していない研修生もいるかと思うので、就職先の業務情報は伝えてお

くべき。Excel と Word の使い方であれば、YouTube に動画がアップされているし、そういう情報があれば研修生は学ぶのではないか。また、全部一から教えるのではなく、ゴムキャタが外れた時の対応方法なども、データベース上に蓄積し見れるようにすれば、いざというときに使えるのではないか。

〈飯沼委員〉

自己啓発の時間について、研修生はどのように取組んでいるか？研修生の様子は？

《事務局》

基本的には学んだことの復習時間として使っている。インターンシップの準備をする人もいるなど、皆それぞれの目標の中で自由に過ごしている。中には自分のテーマを持ってない人もおり、個人差はあると思う。そういった研修生を受け身にさせずに、いかに能動的に学んでもらうかという環境づくりが課題。

〈飯沼委員〉

ぜひ、金子委員から具体的な提案があったことなどについて実践いただき、自己啓発の時間を有効に活用してもらいたい。

〈五十嵐委員〉

修了生の思う「経済的な心配」について、研修生が社会に出た時に、「この給料で結婚が出来るのか」といった状況が林業界にあると、この先が危ぶまれると思う。認定を受けていない会社、規模の大きい会社、それぞれあると思うが、林業従事者が経済的な心配をしないようにするにはどうしたらいいのか、それぞれの立場からどうにかしなくてはいけないと感じた。

《事務局》

事業体と話をする中で、人を雇うということは責任が生まれるということ、それなりの待遇にするにはそれなりの仕事量が必要と言われた。簡単に待遇を上げることはできないが、アカデミーができることとして考えるのは、今後アカデミー生の仕事ぶりが評価され、事業体側からアカデミー生を受け入れたいという声が出てきたときに、受け入れ側に月給制や週休等、相応の待遇を求めることができればと考える。アカデミーで良い事例を作り、優秀な人材を輩出することで待遇改善を図れば林業全体の底上げになると考える。

〈金子座長〉

とても大事なことと思う。

個人的な意見だが、例えば、県で新規の移住者向けに木造住居を供給するなど林業振興と絡めて県外に「林業の魅力」を発信することができればよいと思う。

議題（3）令和6年度就業前長期研修生確保に向けた取組について

【事務局】

(資料4に基づき説明のあと、以下、口頭説明。)

アカデミーを知ったきっかけについて二期生にとったアンケートによれば、

- ・高校で掲示されたポスターを見た、先生から紹介：4名
- ・内定先である林業事業体からの紹介：3名
- ・新聞広告：2名
- ・コンビニに掲示されたポスター：1名
- ・テレビ：2名
- ・一期生からの紹介：1名
- ・回覧板：1名

だった。

研修受講者の年齢について、令和6年度研修生募集より制限を設けた。

5年度募集の際に60代の方からの応募が複数あり、応募理由が定年退職後に自分の山を手入れするための知識・技術を得たいというものであった。アカデミーの趣旨とは異なることから年齢制限を設けることとした。

【委員の意見】

〈金子座長〉

「アカデミーを何で知ったか」について、意外にもSNSが全くないのは面白い。新聞を見ているのも意外だった。

あまり偏見を持たずに様々な媒体で発信すべきということかもしれない。ラジオを聴いている人も一定数いるようなので、情報を知らせる手段には良いと思う。

〈掃部委員〉

オープンキャンパスの開催はもっと周知する必要があると思う。

研修生と修了生の対話は毎年あると良いと思う。

オープンキャンパスは自分でも参加してもよいのか？→参加可能。

〈飯沼委員〉

高校への訪問について、これまでの研修生の出身校は漏れなく行っているか？

《事務局》

基本的には全校行っているが、二期生で訪問先のない橘高校から入講している人がいる。レアケースと思う。

〈飯沼委員〉

あまり固定観念を持たずに行ってほしい。

〈金子座長〉

高校訪問では生徒に直接説明しているのか。

《事務局》

基本的には進路指導の先生に説明を行っている。

〈金子座長〉

自分も、福島大学に食農学類を創設する際、多くの高校を回った。なるべく行っておくと伝わりやすいと思う。

議題（４）その他

《事務局》

次回運営会議は２月を予定。

以 上